

令和6年度

第2回 見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会 報告

昨年度まで、京都府スーパーサポートセンターが主催していた本研修会を、今年度から、府立盲学校の視覚支援センターと南部視覚・聴覚支援センターが主催し、対象を府内全域に広げて実施しました。

当日は、オンラインを含め、弱視学級担任の教職員を中心に計7名の参加がありました。府内で視覚障害のある児童生徒の教育に携わる教職員がそれぞれの学校で日々、頑張っている取組やその中での悩みなどを共有し、お互いに繋がりをもって支え合える関係作りの機会になるよう、意見交流や情報交換を中心に研修を進めました。

概要

- 1 テーマ 「視覚障害児童生徒につけたい力と支援」
- 2 日時 令和6年10月7日(月)14:15~16:45
- 3 対象 府内の視覚障害及び見えにくさのある児童生徒に関わる指導者 等
- 4 形態 会場集合とWeb会議システム(Zoom)を併用したハイブリッド型
- 5 会場 京都府南部視覚・聴覚支援センター 会議室(府立南山城支援学校内)
- 6 内容 ①ワーク(話題提供、意見交流) ②情報交換

『ワーク』では、府立盲学校理療科の弱視当事者である教員も参加し、参加者と「視覚障害児童生徒につけたい力と支援」について、児童生徒が将来仕事に就いた時を想像しながら具体的に考えていきました。

参加者からは、「人の表情が見えないことでのコミュニケーションの難しさ」や「書類の整理」「全体像の把握」など、見えにくさによる情報入手の難しさに留まらず、その先の具体的な困りにまで想像を膨らませて意見を出し合い、児童生徒につけたい力がより明確になりました。

『情報交換』では、校外学習での出来事や1対1の授業における展開の工夫など、弱視学級ならではの話ができ、喜びや悩みを共有することができました。



参加者アンケートより(一部抜粋)

- ・今、担任している児童のことだけではなく、もっと大きな視点で将来像からつけたい力と支援を考えることができた。また、他の学校の先生方や地域支援センターの先生方などと意見交流をすることで、視野が広がった。
- ・視覚障害のある子どもたちの将来像を考えたとき、今持っている夢に少しでも近づけるようにサポートしたいと思った。そのために、コミュニケーションの力を高めることや選択肢を増やすことをこれからの課題にしたい。
- ・ゴールを見据えて支援するという言葉を念頭に、これから、よりよい支援は何かを考えて実践していきたい。